



平成27年 7月 3日 NO・44

〒311-1114 水戸市塩崎町1016  
 TEL029-269-2116 FAX029-269-3160  
 Mail tunezumi-j@magokoro.ed.jp  
 【ホームページで、カラー版が見られます】

## 3年生の明るい雰囲気が出る給食の様子



中央大会のため、担任不在のクラスが多い日が続いている。昨日は大関先生一人を残し、三年担任が全員学校外に出ている。こういう時にこそ、クラスの実力が現れるものだ。とりわけ、掃自(掃除)の時間、給食の時間などに如実に表れる。  
 三年生の各クラスの給食の様子を見せてもらい、うれしくなった。どのクラスも、秩序を保ち、時間まで勝手な行動をとる生徒が一人もいず穏やかな雰囲気の中、給食をすすめていた。一人一人が男女を問わず明るい。楽しみに会話を交わしながら食を進めていた。健全な魂を育むためにも、食は大切だ。

### 聴く力が全ての基本

根本先生「偉い人の子供が、才能が無いのにそのまま偉い人になってしまったら、世の中にとってはまずいよね。」

斉藤さん「はい」

(うなづくと同時に、周りに迷惑をかけない程度の小声で「はい」と言う。)

30日に行われた根本先生の社会科の授業『聖徳太子はどのような国づくりをめざしたのか』の様子です。授業の中で根本先生が上記のような説明をする場面がありました。

何気ない場面で、おそらく斉藤さん自身も、根本先生自身も、クラスのほとんどの人も忘れてしまっている場面では無いかと思います。

しかし、この場面は素晴らしく光っていたととらえています。

何が素晴らしいかと言いますと、斉藤さんの説明の聴き方です。

話を聴くときの聴き方として、「話は、目と耳と、心で聴く」と本校では指導しています。

では、具体的にどうすれば「目と耳と心で聴く」ことができるのでしょうか。

少なくとも次のようなことが大切に

なります。

○身体を話者に正対させる。(顔を上げ目を話者に向けてだけではなく、ヘソを話者に向ける)

○心で聴くためには、ここは大切だと思った所では『うなづく』

○心で聴くためには、自分で判断して『ここだ』と思った所では、『ハイ』と声に出す。(意志表示する)

おそらく、小学校でも同じような指導がされてきていると思います。再度見てください。根本先生が、「～まずいよね」と生徒に語りかけたとき、斉藤さんは、素早く反応し、「強く、その通りだ」と思ったはずですが、ここですかさず、「はい」と自然と声が出たのでした。

ここから、斉藤さんは根本先生の話を中心に聴いていたことが分かると思います。

実は、こういう聴き方をすると話をしている人は、とても安心感を覚えます。斉藤さんの聴き方は、人への思いやりの心をも育む聴き方なのです。声に出さずとも、うなづきながら聴く、という聴き方は温かい雰囲気をつくる上で、とても大切です。

話の聴き方に、常中で大切に行っている常中魂が現れます。



住谷さんの発表後、すかさず班員の坂場さんが、「さすが住谷さん」と声をかけた。坂場さんもすかさず。